

鹿児島県アイランドキャンパス事業
与論町の住民の力を活用した「生活の支えあいづくり」活動の構築支援に関する研究

～ 地域で生活続ける～

Part 2



鹿児島女子短期大学 生活科学科生活福祉専攻 福永宏子



アイランドキャンパス事業の これまでの経過と成果



令和2年度 R3.2.9～10, 2.22～24

*インタビュー調査 (在宅生活者と家族)

Q1, 今の生活となる
までの心配や不安

Q2, 現在の楽しみ

Q3, 現在の生活での
心配な事

Q4, これから生活を
始める方へのア
ドバイス

Q1, 何もかもが心配で一言では言えない
専門の先生がいない。薬の副作用
等聞きたいときに相談できなかつ
たこと

Q2, 自分のペースで過ごすことができる
食べる事。テレビなど見て過ごす

Q3, 自分より配偶者のことが心配
家族に心配をかけること。体が動
かなくなること

Q4, 利用者本人や家族が困っていることを
家族内でとどめず、相談できる人に相
談したり、保健センターなどに尋ねた
りすることで、必要なサービスや支援
を教えて下さったり、利用に繋がった
りするので、まずは尋ねたり相談して
みて下さい。

やりたいことを我慢するなど、病気になっ
たから諦めるのではなく病気でも諦めないで
ほしい

家族と健康第一

令和2年度 R3.2.9~10, 2.22~24

*インタビュー調査 (相談員)

Q1, 主な相談内容
Q2, 困り事と解決法
Q3, やりがい
Q4, 町の良さ
Q5, 町の発展してほしいこと

Q1,

サービスの利用方法、生活習慣病、在宅生活のこと

Q2,

資源が限られている、一人で解決しないといけない複数回の訪問、情報の発信

Q3,

利用者との信頼関係、看取り
利用者の変化

Q4, 与論町自体が家族

Q5, サービスと人材, 予防

いずれは与論の土となる

住みやすい町になってほしい

令和2年度 R3.2.9～10, 2.22～24

*インタビュー調査



インタビュー後の学生の感想

与論町の現状（ハード面、ソフト面で抱える課題点）など直接話を聞き、**考えるべきことがたくさんある**ことを知った。

島外で暮らしていた方も、「**安心して故郷で暮らしていきたい**」と思える町づくりを皆で考え、**作っていくことが必要なのだ**と思った

ご家族がインタビューに答えるとき、時々利用者の顔を見ながら答えており、言葉につまるときもあった。**利用者のことをとても心配し、気にかけてる様子**がみえた

利用者は家族が話をしているとき、とても嬉しそうに笑っていた。**隣にいて安心している様子**がみえた

進行していく病気への不安を抱えながらも、お互いのことを心配をしているご家族を見て、**支え合い、思い合って生活しているのだ**とわかった

学生によるワークショップ

- 2つのグループに分かれ、討議を進めていった結果、「期待」、「命を守りたい」のテーマとなった。
- テーマの解決方法について検討を重ね、他グループからの意見も参考にしながら、具体的な「地域づくりマップ」の作成へ取り組んだ。
- 「情報の発信」、「場の提供、共有」、「人、教育」「負担、不安の軽減」「つながり」などの可能性を提案した。
- 与論町の障害者支援相談員とのオンラインでの意見交換会では、各グループの代表が説明を行ったのち、質疑応答を行った。
- その中から以下のようなことが分かった。
 - ① 人が近い存在であるがために、難しさが出てくることがある。
 - ② 初めから「無理だ」と思ってしまう事が、きちんと整理されたことにより、今ある課題がすっきりとした。
 - ③ 今ある情報ツールなどをさらにうまく活用することが出来るかもしれない可能性ができた。





与論町でのワークショップ

- 学生が考えた内容は、非常に整理されて参考考える前のよい材料となった。
- 一方で、賃金の安さや住宅の確保など地域で生活する者でなければ分からない問題を共有できた。
- 教育，人材育成に多くの興味があることが分かった。その中でも、小学校の頃からでも早く興味を持って取り組む必要性を感じた。
- 「知っていても言わない」「知られたくない」の気持ちが交錯し、うまく支援に繋がらないもどかしさがあることが明らかとなった。
- 「相談窓口などがわからない」「福祉事業所・施設が町内にあることを知らない人が多い」などの現状が明らかとなった
- 情報の発信への工夫（今ある情報ツール）をすることで、興味を持つ人を増やす必要があることが明らかとなった。
- 家族の関係の中で、支援が必要な人への態度などを見せることや、実際の場面の体験も必要であることが明らかとなった。



終了アンケートの結果

* 「ワークショップはどうだったか」

11人が「とても良い」、2人が「よい」との回答であった。

「楽しかった」との感想が一番多く、「一緒に考える機会ができ、改めて与論について考えたい」、「みんなで作り上げていく過程が良かった」「いろいろな意見を聞くことができてよかった」「様々な問題意識を共有できた」「わかりやすかった」「実現に向けて行動できれば良い」などの感想が出されていた。

* 「一番印象に残っているところ」

「一人では難しくても、力を合わせればできることを再確認した。「まずは、ともに過ごす場づくりから」「与論への思いは一つ」「意見はあるが、だれが中心になって活動を勧めるか?」「今何ができるのか考えさせられた」「できることは助け合う、自然な形で出来たらいいな」など同じ思いを持っていることが確認できたことが印象として大きかったと考える。

* 「同じような企画があれば参加したいか」

全員が「したい」と回答した。

* その他

「機関や立場を超えて一緒に考えていきたい」「学生の発表から深く掘り下げた勉強会を開催してほしい」「何回も実施して具体化していければ」「個人情報保護と情報開示を増やすなども実現に向けての課題になる」「学生の頑張りを見て、自分も元気をもらった」などがあつた

令和3年度 R3.10.

*インタビュー調査 (住民福祉課担当者 地域住民)

与論町のよさ

働くことの生きがい 楽しみ 家族や地域での役割

サービスや社会の変化で

これまでの歴史文化とのバランスが崩れつつある危機感

昔を知る (過去の継承)

必要な人に必要なサービスの提供を行っていく

一つひとつを丁寧に

家庭環境の教育も大切 家庭が差別偏見を作っている？

➡みんなで共生していくそれには、住民全体で取り組む必要

令和3年度

R3.10.

* 情報交換会

アンケートの結果

1 よかった **16** 2 ふつう **4** 3 よくなかった **0**

【感想】

- * 与論町の現状を知ることができてよかった。現状を認識し何が必要か各所が考え全体で考え住みよい島づくりをして行けるとよいと思います
- * 各施設の役割と認識することが大事だと感じた。各施設が一堂に介す機会は今までになかったんで、定期的に今後研修会を開催されることに関してはその分野に関しても重要であると感じた
- * 各事業所の状況、課題が把握でき非常に良かったです

【今後の研修企画】

- * 家族などが認知症ではないが失禁してしまい家族は仕事をしていて世話が大変というのを聞くので、与論の介護サービスやサービスを受ける手順などを聞ける研修会があればと思います
- * 基本的介護研修から初めて人材育成を進めてほしい。初心者介護研修～段階的研修。障がい者対応研修、スキルアップのための研修
- * フレイルの関する内容で、関係機関でそれぞれどのような取り組みをされているのか、そして課題の掘り起こし企画
- * 人材掘り起こし 各施設共通の課題に関する研修

令和3年度 R3.10.

* 情報交換会

【地域づくりに興味があるか】

1 ある 2 0 2 ない 0 3 わからない 0

* 若者が返ってこれる島づくりが必要

* 自分たちが住んでいるこの与論を行政任せではなく、一人ひとりが自分が何が
できる考えていか・なければ発展はないと思う。少しずつできる範囲でやれれ
ばいいと思う

* 介護予防、認知症予防

令和3年度

R3.10.

* 意見交換会

- * マンパワー、施設、医療系サービス等様々な不足はあるが、住民の居場所、どの年齢でも命を守る活動を始めなければいけない
- * 自分で生きる力、自分と生きる力をつけていく
- * 住民一人ひとりの役割を持つことができる活動
- * 土台を作っていく必要がある

「介護福祉士が担う地域活動と役割」 アンケート調査の結果（概要）



アンケート調査の目的

地域で生活している人を対象に介護に関するアンケート調査を行い，介護福祉士が担うべき活動および地域で求められている役割について明らかにすることを目的とする

年齢や障害の有無に関係なく安全に安心した地域生活を可能にする「地域共生社会」の実現に向け，地域の力を高めていくには，地域の社会資源としてのサービスや制度のみならず，住民一人ひとりが介護に関する知識や技術を習得することも重要な社会資源の一つになると考える。

アンケートの方法と結果

1島1行政区の離島

高齢者の数が類似している鹿児島県
本土の町

大島郡与論町 喜界町
霧島市 福山町 の全世帯を対象

町からの回覧を通じて配布

市区町村名	総数	65歳以上	65歳以上
	(人)	(人)	(%)
喜界町	6,629	2,678	40.4
与論町	5,115	1,792	35.0
福山町	4,515	2,018	44.1
霧島市	123,135	34,494	28.0
鹿児島県	1,588,256	516,756	32.5
全国	126,146,099	36,026,632	28.6

表1 市町村別65歳以上の人口（2020年国勢調査）

表5 アンケート調査配布数・回収数

	配布世帯数	回収済み	回収率(%)
喜界町	3,507	426	12.1
与論町	2,182	343	15.7
福山町	1,818	268	14.7
計	7,507	1,037	14.2

回答結果が有効となるサンプル数
(許容誤差5 信頼度95%
回答比率50%)

喜界町 347
与論町 327
福山町 318 (信頼度 92%)

現状

表2 保険者別第1号被保険者に占める要介護（要支援）認定者の状況

		与論町	喜界町	霧島市	鹿児島県
保険者別第1号被保険者に占める要介護（要支援）認定者の状況	65歳以上 （人）	1,806	2,730	34,846	513,542
	要介護認定 者数（人）	296	429	6,233	100,476
	割合（%）	16.4	15.7	18.3	19.6

表3 保険者別介護サービス別の給付額割合

		与論町	喜界町	霧島市	鹿児島県
保険者別介護サービス別の給付額割合	居宅系	15.2	49.2	42.1	38.9
	地域密着型	9.6	13.3	26.4	25.3
	施設	75.2	37.5	31.5	35.8

表4-1 介護サービス施設・事業所数

高齢者			与論町	喜界町	福山町	霧島市
地域 入所 密着 型	介護老人福祉施設（特別 養護老人ホーム）	施設数	1	1	1	13
		定員	55	80	90	718
	介護老人保健施設	施設数	1	0	0	4
		定員	100	0	0	280
	指定介護療養型医療施設	施設数	0	1	1	2
		定員	0	18	5	8
	介護医療院	施設数	0	0	0	2
		定員	0	0	0	79
	認知症対応型共同生活 介護事業	施設数	1	1	1	24
		定員	18	9	9	351
	小規模多機能型居宅介護	施設数	0	1	1	16
	有料老人ホーム （介護付き）	施設数	0	1	0	10
		定員	0	50	0	243
	居宅 系	訪問介護		1	2	1
訪問入浴		1	1	0	1	
デイサービス		1	3	2	49	
通所リハビリテーション		1	1	1	18	
訪問看護ステーション		0	0	1	16	

図4 「主に誰に相談するか」 与論町

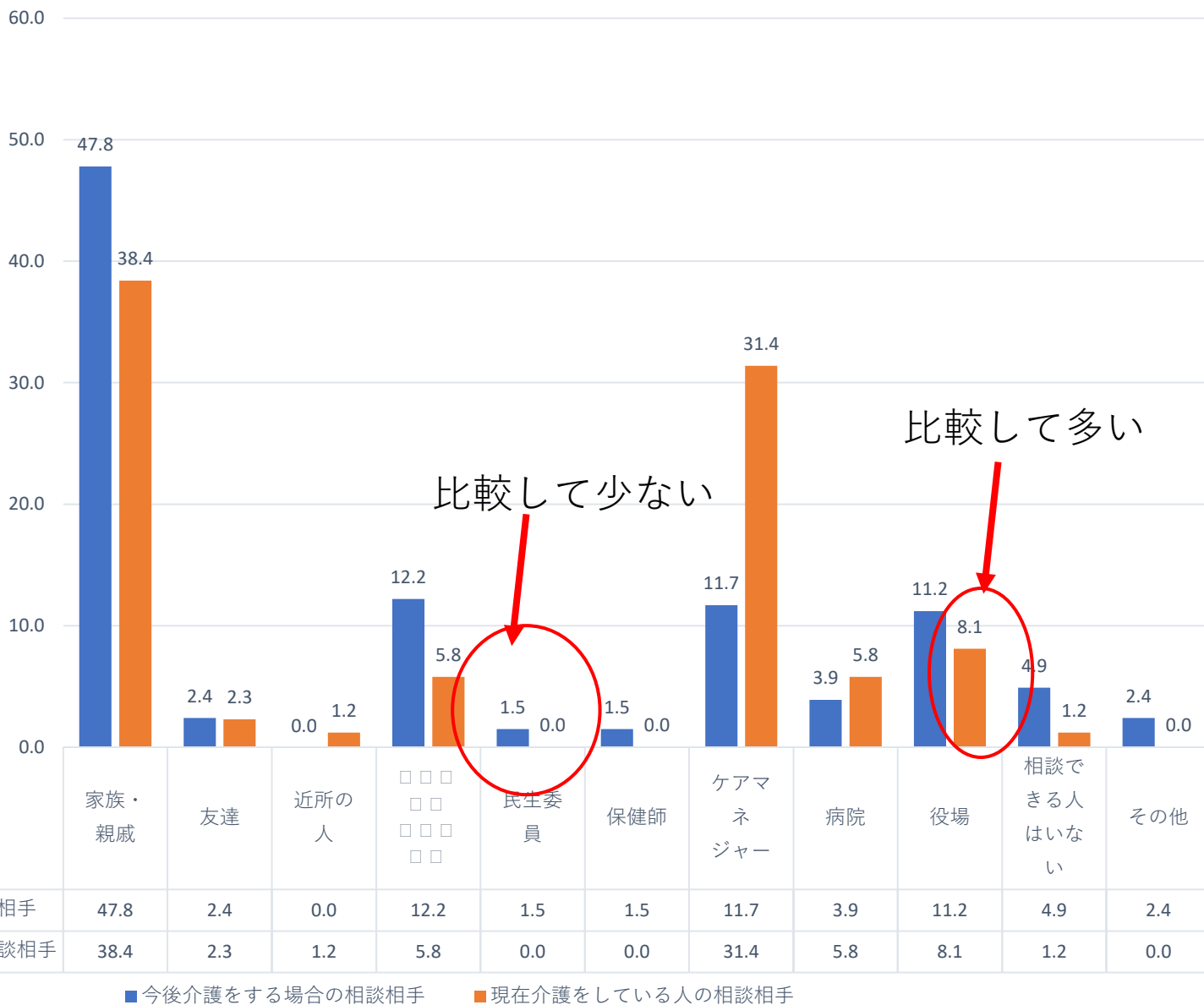
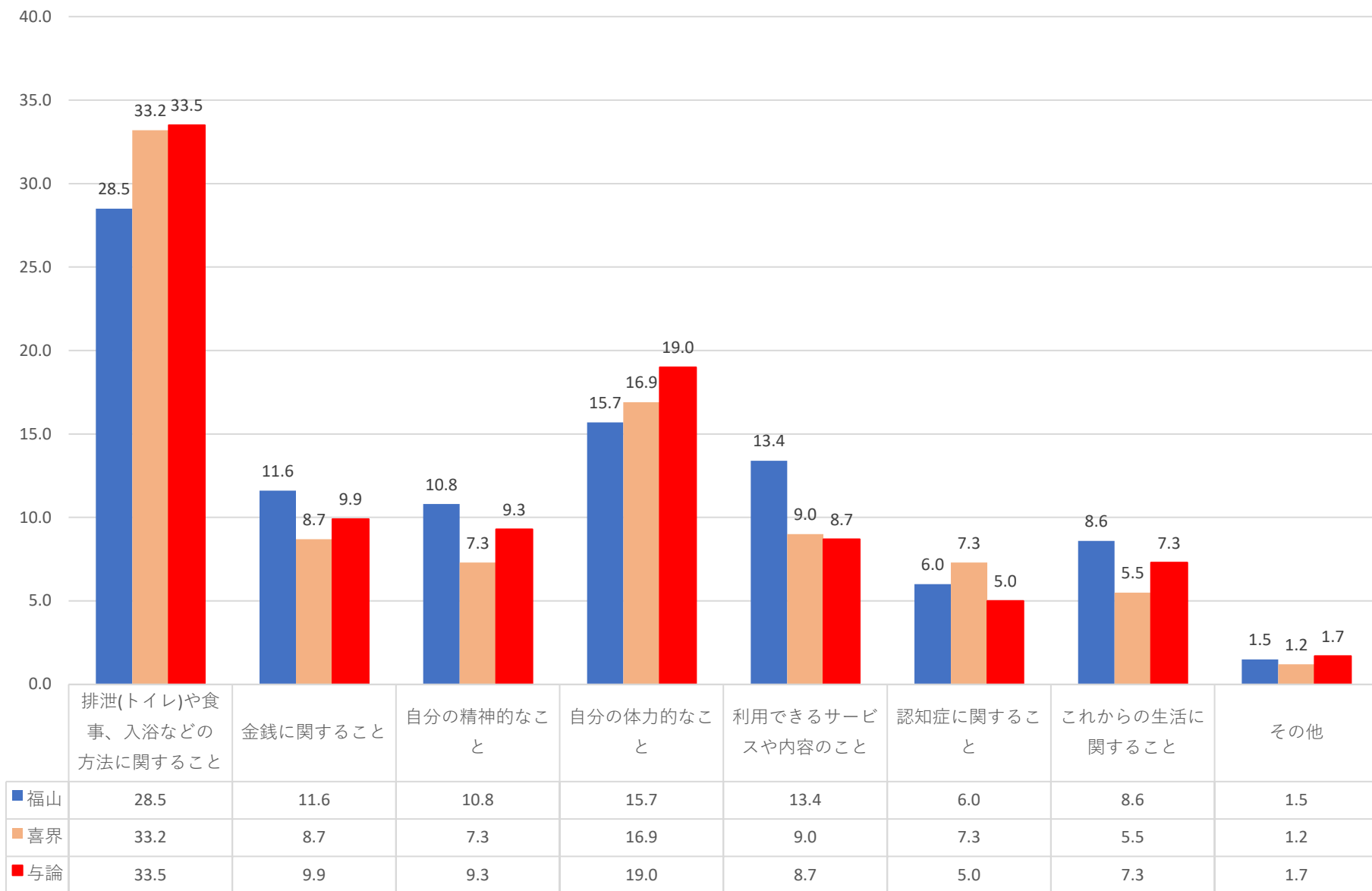
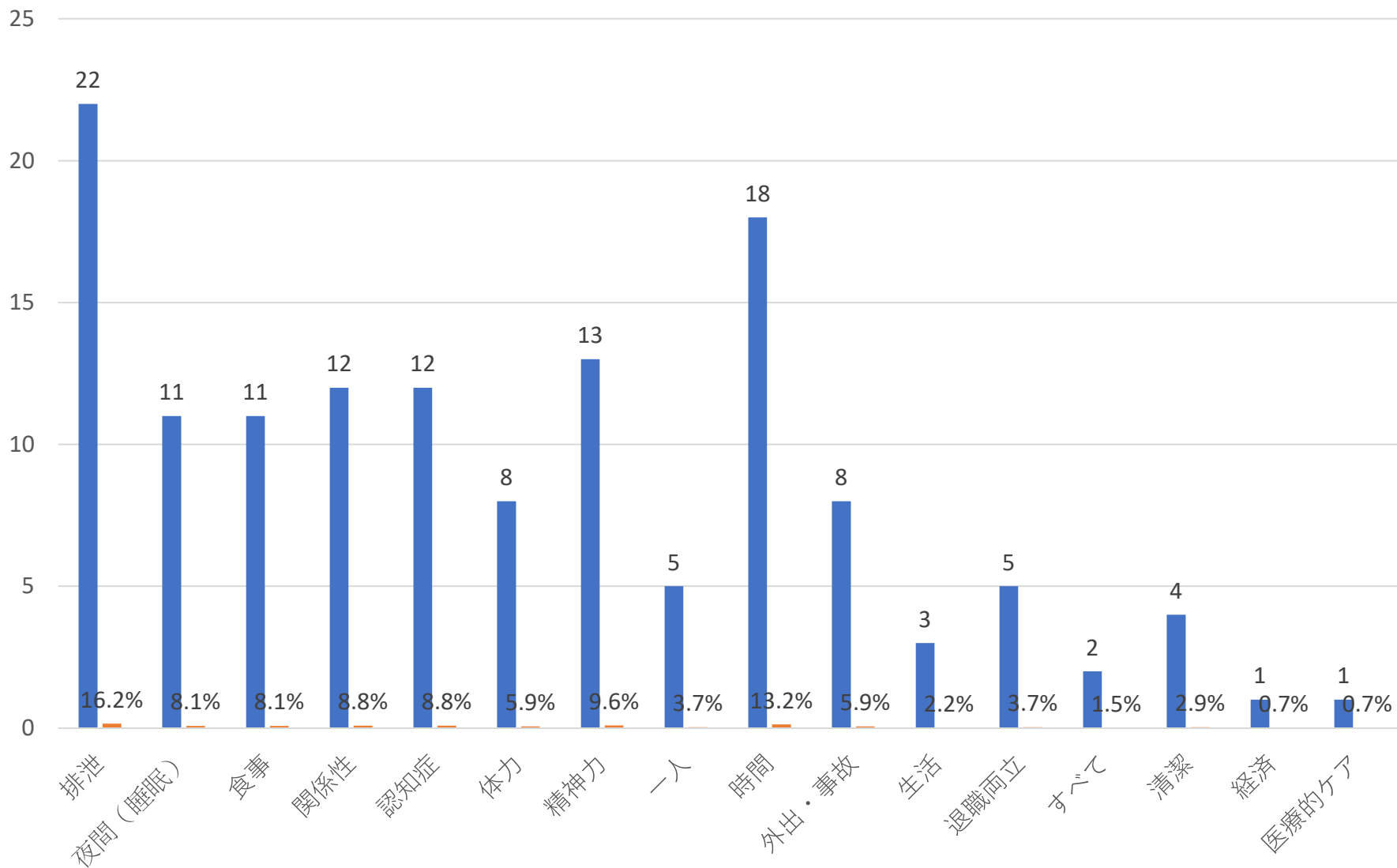


図7 介護を行う上で心配・不安なこと



軸ラベル

自由記述から 介護で大変だったこと（速報）



介護で大変だったこと 大分類（速報）

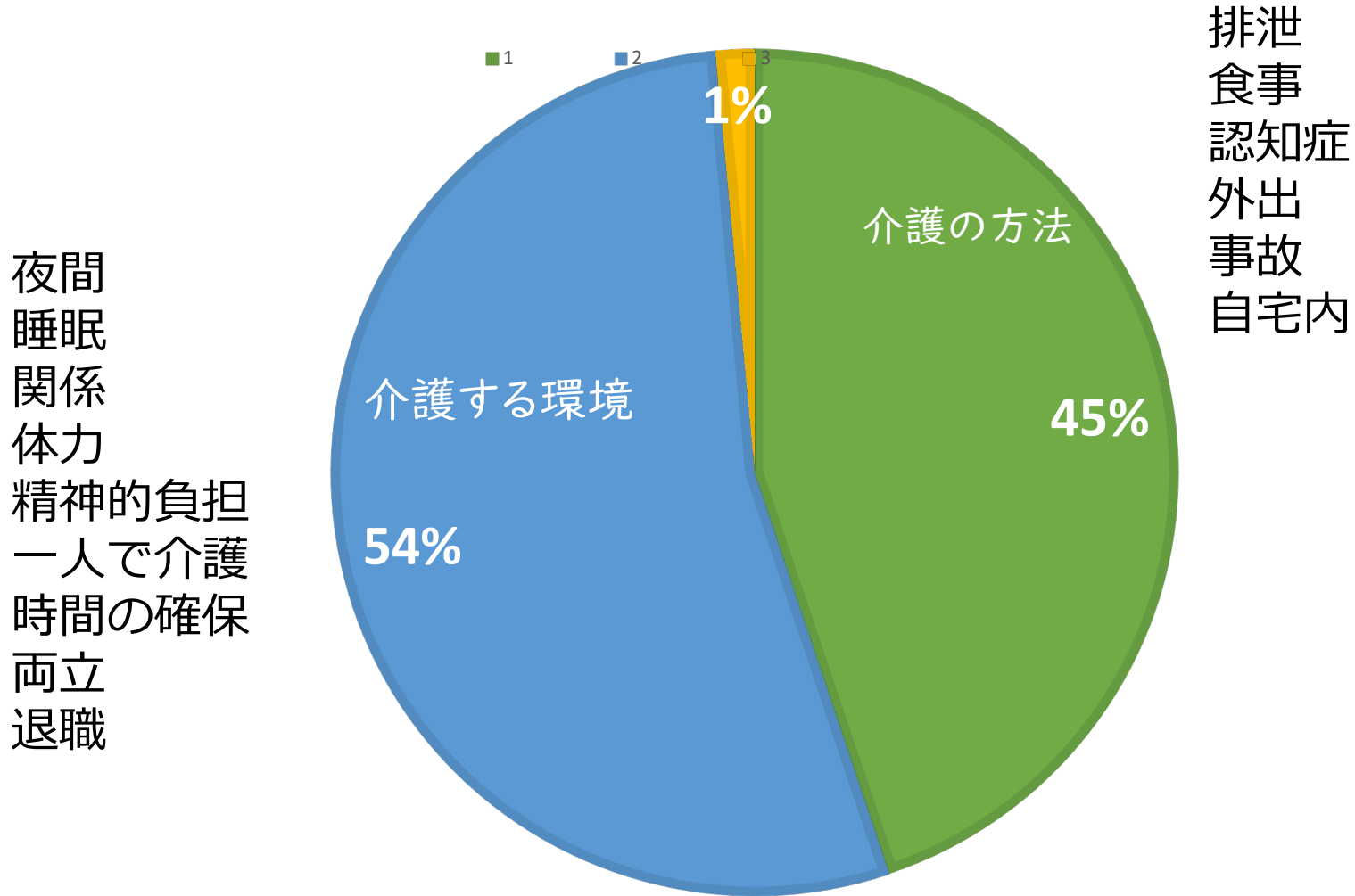


図8 日常生活が不自由になった場合どうするか

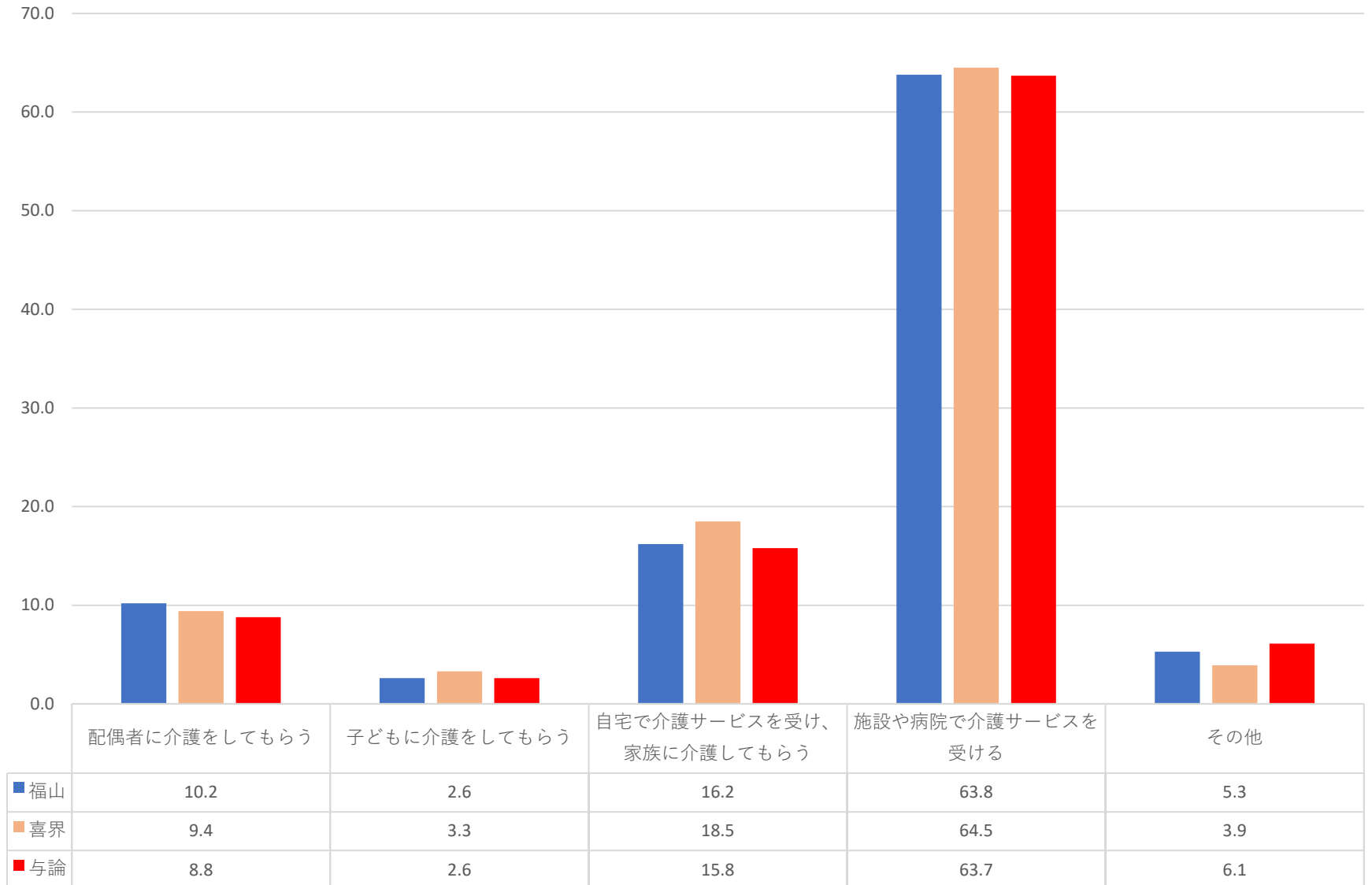
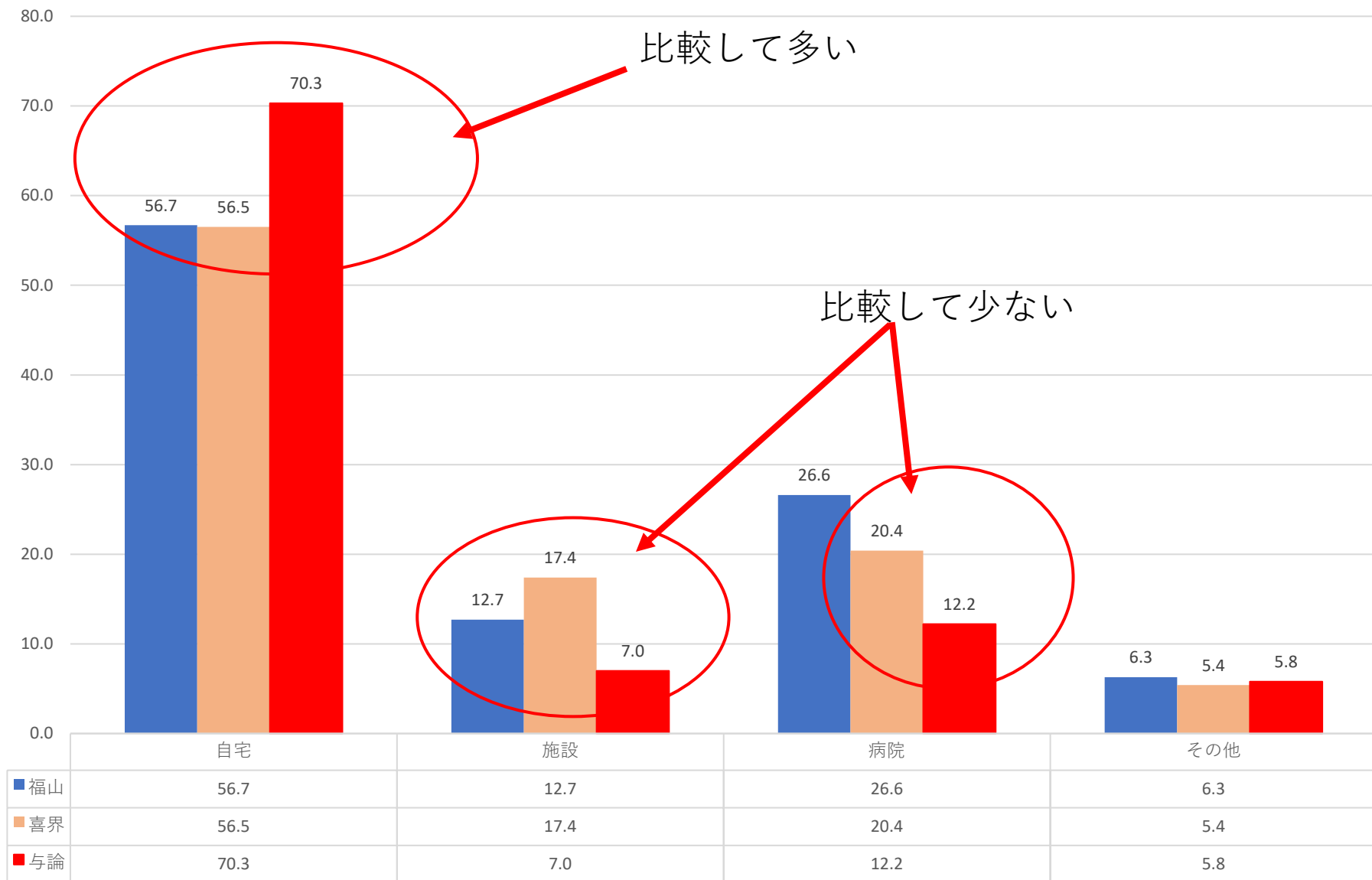
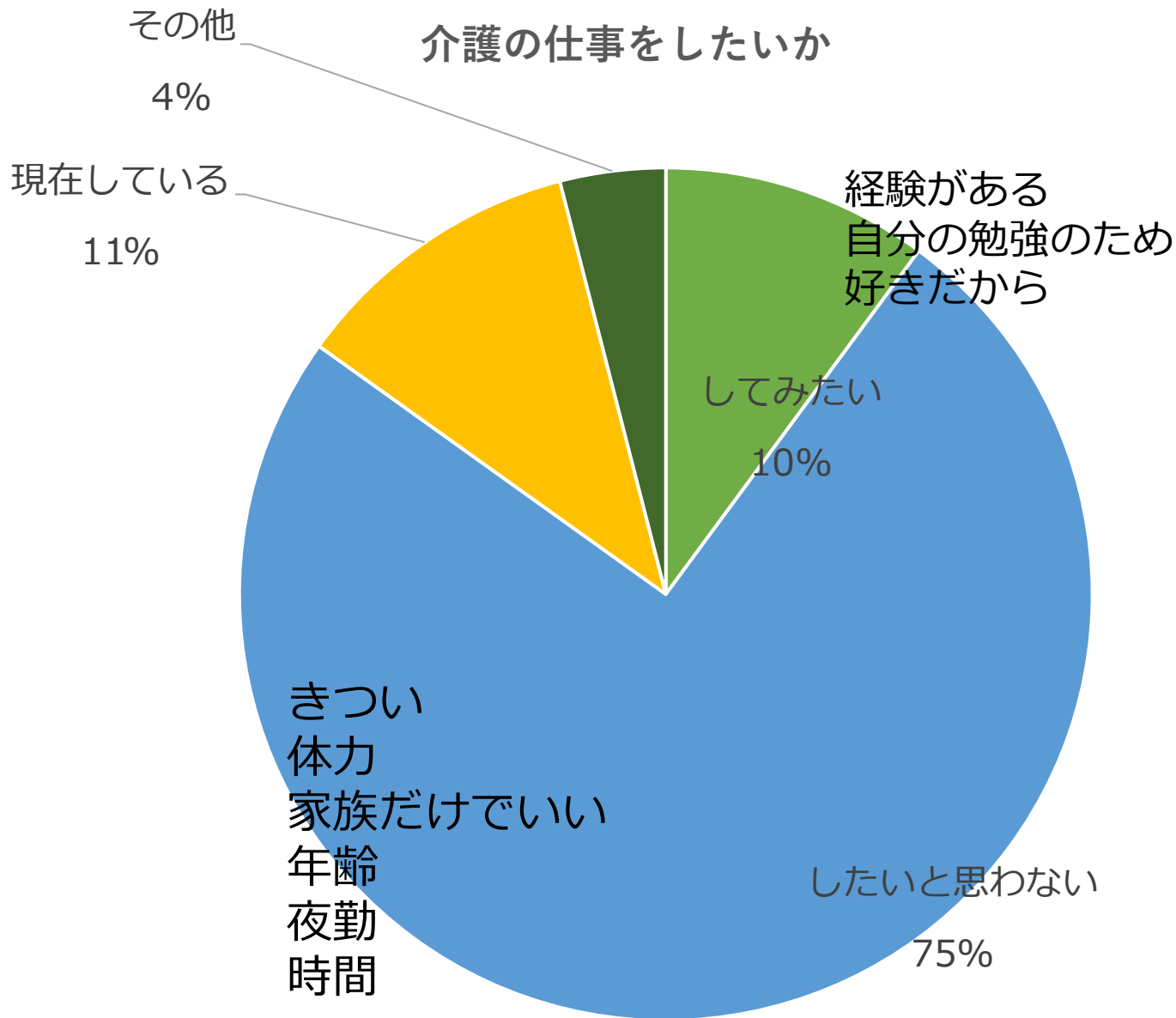


図9 どこで最期を迎えたいか



介護の仕事をしたいか



アンケートの結果から考えられること ～相談の相手～

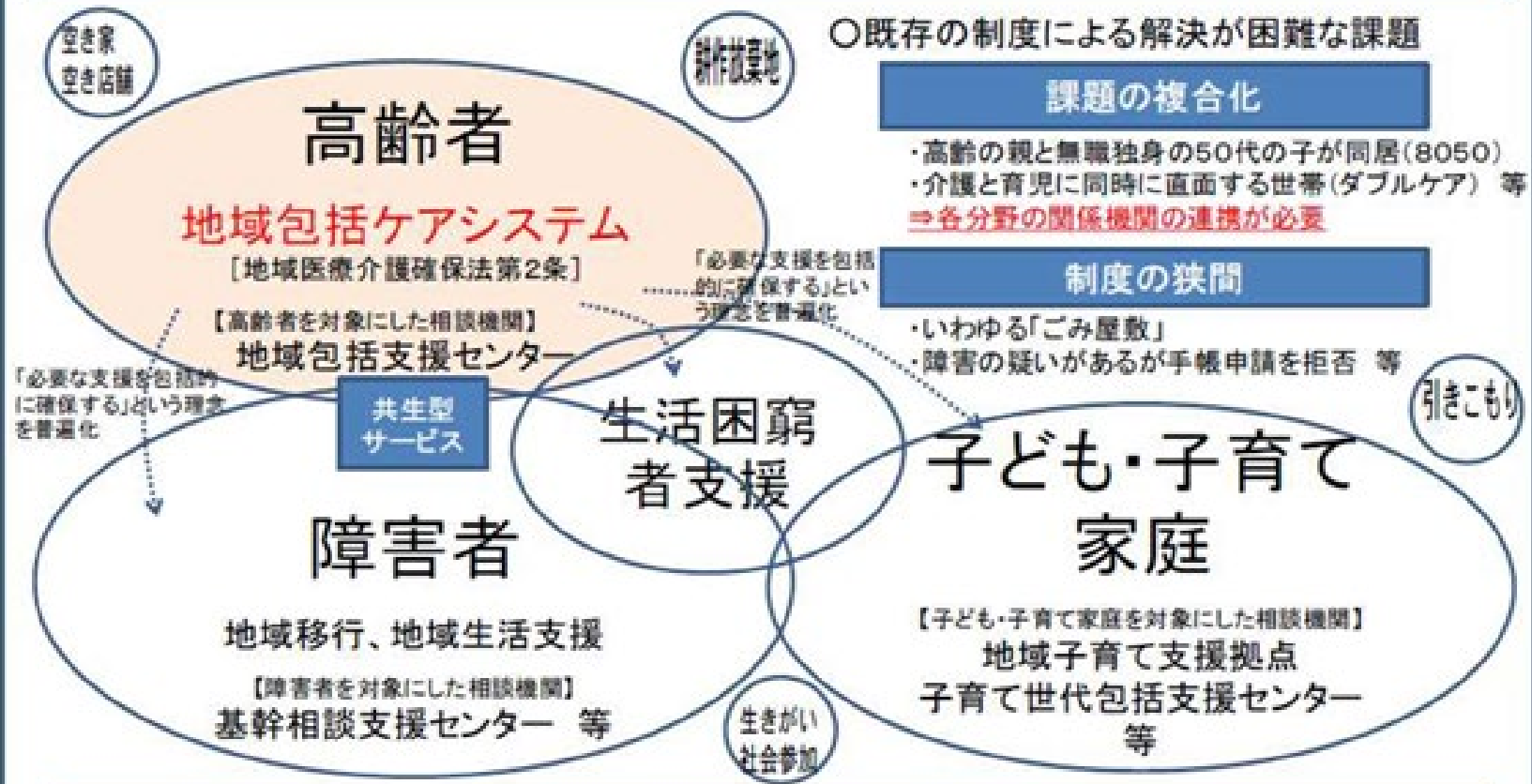
- 「現在している人」は、相談相手に対して単に身体介護などの介護技術だけでなく、これまでの**経験や知識を基にしたアドバイス**を求めているといえる
- 介護サービスをまだ利用していない人は、「**どのようなことを、どこに、何を**」がわからない可能性がある。
- 相談相手として必要とされ、目的を果たすためには、このほかにも**他機関や職種との連携や協働する能力も必要とされる**と考える。自分だけでは解決できないことを的確に他の制度やサービス、支援につなぐことも重要な役割である
- **身近に相談できる場所や、相談を適切につなげる、連携づくりと相談者のスキルアップが求められる**

アンケートの結果から考えられること ～サービス利用～

- 単にサービスを増やすことが解決策ではない
- 今あるサービスを、必要としている住民が利用できるように、好循環ができる連携が必要である
- 住民の介護に関する知識を高める活動も必要
- 介護者の負担も十分に考えた対策が必要

～高齢者の問題ではなく 地域の問題として～

地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制



土台としての地域力の強化 「他人事」ではなく「我が事」と考える地域づくり

◆制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、**住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会**

支え・支えられる関係の循環

～誰もが役割と生きがいを持つ社会の醸成～



- ◇居場所づくり
- ◇社会とのつながり
- ◇多様性を尊重し包摂する地域文化

- ◇生きがいづくり
- ◇安心感ある暮らし
- ◇健康づくり、介護予防
- ◇ワークライフバランス

すべての人の生活の基盤としての地域

地域における人と資源の循環

～地域社会の持続的発展の実現～

- ◇社会経済の担い手輩出
- ◇地域資源の有効活用、雇用創出等による経済価値の創出

- ◇就労や社会参加の場や機会の提供
- ◇多様な主体による、暮らしへの支援への参画

すべての社会・経済活動の基盤としての地域



農林



環境



産業



交通

.....

これまでの与論町のよさをこれからの時代に合わせて柔軟に変化していくことが何よりも大切